

# 一般会計補正予算63億8,000余万円を可決



第14号

市政報告  
発行 **あらき竜二**  
倉敷市川入 641-5  
TEL & FAX : 086-434-8185  
http://www.ryu2.biz/  
e-mail: info@ryu2.biz

facebook

## 恒例13回日のジーンズ議会

(令和2年9月1日～9月30日)

今回の補正予算は、新型コロナウイルス感染症対策に要する経費や7月17日に「SDGs未来都市」及び「自治体SDGsモデル事業」に選定されたことを受けてSDGsの普及啓発などを行う経費、決算剰余金を活用した経費などを中心に計上しています。

今回の補正予算は、新型コロナウイルス感染症対策に要する経費や7月17日に「SDGs未来都市」及び「自治体SDGsモデル事業」に選定されたことを受けてSDGsの普及啓発などを行う経費、決算剰余金を活用した経費などを中心に計上しています。

### 補正予算の主な事業

#### 【市長新規事業】自治体SDGsモデル事業

▼2面SDGs

事業費 4292万円

#### 【環境意識啓発事業】

410万円

大学と連携し、環境をテーマとした絵本や雑がみ分別紙袋を作成します。

#### 【高梁川流域職員合同研修事業】

60万円

流域自治体職員を対象に研修を行います。

#### 【災害廃棄物官民連携事業】

480万円

災害発生時の廃棄物処理対応力向上のため、官民連動の初動マニュアルや

#### 【課題解決人材創出事業】

900万円

地域の課題解決に取り組む人材の育成や地元金融機関によるコミュニティビジネスへの関わり方の研究などを行います。

#### 【防災力強化事業】

1100万円

防災関連のオープンデータを活用した地図情報に、防災情報等を加えることで、地域の防災マップを作成できるシステムを整備します。

#### 【普及啓発事業】

1342万円

リーフレットや啓発用物品などを作成します。

#### 【市長公約】総合福祉会館整備事業

事業費 4億9627万円

〔債務負担行為7億4473万円〕新総合福祉会館(仮称)の建築工事を行います。

※倉敷児童館、有城荘、ふじ園の複合施設として整備(令和4年度開館予定)

#### 【市長公約】災害備蓄品整備事業

事業費 464万円

避難所での感染症対策として、非接触型体温計等を購入します。

#### 【新規事業】高齢者インフルエンザ等予防接種事業

事業費 3億2259万円

国のインフルエンザ予防接種に関する優先接種の考え方を踏まえ、インフルエンザに罹患した場合に重症化リスクが高い高齢者等に対して、今年度のインフルエンザ予防接種を無料化し、優先的に摂取するための委託料

実施期間 令和2年10月1日から令和3年1月31日まで

※優先接種期間は、令和2年10月1日から10月25日まで

対象者 満65歳以上の方及び満60歳から満65歳未満の方で心臓、じん臓、呼吸器の機能の障がいまたはヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障がいのある方(身体障がい1級程度)

#### 【市長公約】オリンピック・パラリンピック教育推進事業

事業費 90万円

小・中学校でパラリンピアン等による講演会やパラスポーツの体験会を実施します。実施予定校: 連島北小学校、味野小学校、川辺小学校、新田中学校、連島中学校、味野中学校

#### 【市長公約】避難経路等確保事業

事業費 600万円

〔債務負担行為2億1160万円〕末政川の堤防改修に併せて、避難時に支障となる狭あい道路を解消し、安全な避難経路を確保します。真備町有井6号線

#### 【市長公約】ため池防災減災事業

事業費 2450万円

農業用水の確保を図りつつ、防災・減災対策の強化を図るために、ため池の改修・縮小・廃止を行います。

#### 【市長公約】浸水対策事業

事業費 1億7800万円

緊急自然災害防止対策として、排水機場の改修等を行います。

・福田東排水機場 1億1800万円  
・大西排水機場 6000万円

#### 【拡大事業】証明書交付事業

事業費 517万円

本庁舎内に、マイナンバーカードを利用して住民票等を取得できる機器を設置します。

#### 【新規事業】安心して過ごせる観光地づくり推進事業

事業費 6000万円

新しい生活様式に対応した観光客受入環境の充実等に取り組む宿泊事業者に対して助成します。

#### 【単独公共事業】

事業費 8億5752万円

農業施設、道路、河川、公園、学校園などの整備費を追加します。あわせて、河川、水路などの緊急自然災害防止対策を行います。

#### 【災害復旧事業】

事業費 7360万円

令和2年7月の大雨により被災した林地及び公園施設の復旧を行います。  
〔林地〕玉島 960万円  
〔公園施設〕高梁川水江、西阿知 西原広場 6400万円

# SDGsの17目標

SDGsとは「Sustainable Development Goals (継続可能な開発目標)」の略称です。

SDGsは2015年9月の国連サミットで採択されたもので、国連加盟193か国が2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた目標です。



1. 貧困をなくそう  
あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ



2. 飢餓をゼロに  
飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する



3. すべての人に健康と福祉を  
あらゆる年齢のすべての人の健康的な生活を確保し、福祉を推進する



4. 質の高い教育をみんなに  
すべての人に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する



5. ジェンダー平等を実現しよう  
ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワメントを図る



6. 安全な水とトイレを世界中に  
すべての人に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する

この6つの目標を見ていると、貧困や飢餓、健康や教育、さらには安全な水など開発途上国に対する支援に見えます。しかし、実際には、日本の子どもの6人から7人に1人が貧困だと言われていたり、ジェンダー平等に関しても2019年12月に世界経済フォーラムで発表された数字によると153カ国のうち120位と、とても低い数字になっていて、これらの目標は先進国である日本国内でも当てはまります。



7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに  
すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する



8. 働きがいも経済成長も  
すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用および働きがいのある人間らしい仕事を推進する



9. 産業と技術革新の基盤をつくろう  
強靱なインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、技術革新の拡大を図る



10. 人や国の不平等をなくそう  
国内および国家間の格差を是正する



11. 住み続けられるまちづくりを  
都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靱かつ持続可能にする



12. つくる責任 つかう責任  
持続可能な消費と生産のパターンを確保する

エネルギー、働きがいや経済成長、まちづくりこれらはまさに先進国である日本も密接に係る目標です



13. 気候変動に具体的な対策を  
気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る



14. 海の豊かさを守ろう  
海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する



15. 陸の豊かさを守ろう  
陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る



16. 平和と公正をすべての人に  
持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する



17. パートナリシップで目標を達成しよう  
持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

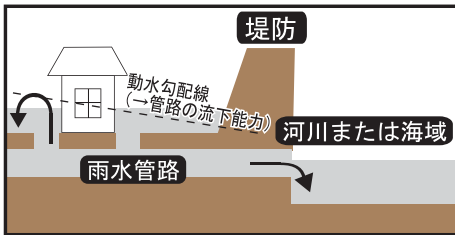
SDGsが世界でこれだけの広がりを見せているのは、開発途上国だけでなく先進国も、働きがいや経済成長までも踏まえたものだからと言えます

気候変動、海や陸の課題は、開発途上国や先進国だけの話ではなく、もっと包括的な話になってきます。

# 水害の種類

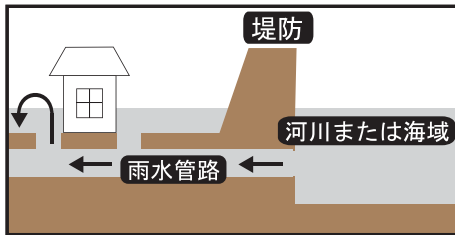
## 内水氾濫①

河川水位は上昇していないが管路の能力不足で浸水が発生します



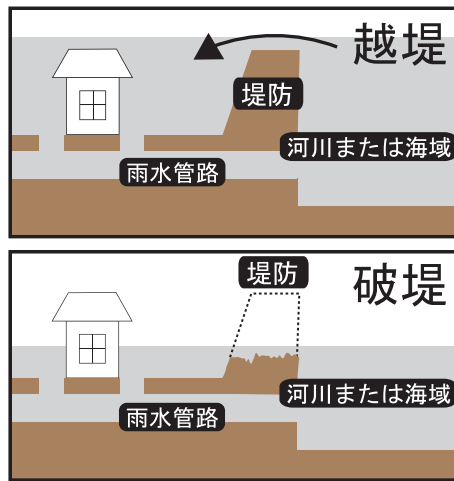
## 内水氾濫②

河川水位が上昇し、それまで排水できていた管路内の雨水が溢れ浸水が発生します



## 外水氾濫(洪水)

河川水位が上昇し、越堤または破堤により浸水が発生します



# 倉敷市雨水管理総合計画について

近年、都市化の進展による浸透域の減少や、河川水位等の排水影響により、浸水被害の顕在化、広域化が進んでいます。

国では近年の気候温暖化や豪雨増加傾向を鑑み、水防法及び下水道法の改正が行われ、「再度災害防止」「選択と集中」「既存ストック活用」等を重視した計画策定と効率的な事業運営を求めています。このような背景を踏まえ、下水道による浸水対策を計画的に進めることを目的として、雨水管理総合計画を策定しました。

## 段階的な浸水対策

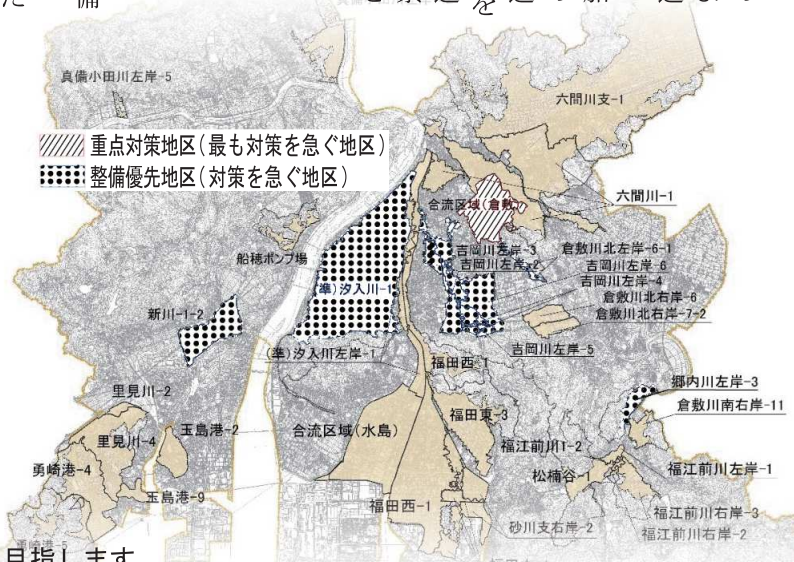
時間軸を考慮した段階的(当面・中期・長期・超長期)な整備計画を策定し、段階ごとの整備目標に向けて事業を推進します。

雨水整備の優先度は、浸水実績などを踏まえた対策実施に対する市民ニーズと、市内の各地区における地域特性(人口集中・交通・防災拠点などの都市機能の集積状況や浸水しやすさなど)を配慮して設定します。

効率的に事業を推進するにあたり、整備段階では、既存の下水道施設や下水道以外の雨水排水施設(Ⅱ「既存ストック」)の排水能力を最大限評価し、整備目標に必要な対策を実施します。

## 公助・自助・共助

近年は全国的に下水道の整備目標を超える豪雨が多発しており、下水道整備だけで市民の生命や財産を守ることが困難になりつつあります。そのため、下水道整備(公助)だけではなく市民による浸水対策の取組み(自助・共助)と併



せた行政と市民の協働した対策を推進します。

## ソフト対策事例

### 公助

- ・排水ポンプ車の配備
- ・水害ハザードマップによる避難活動支援
- ・雨水タンク設置者への助成

### 自助・共助

- ・各戸貯留・浸透施設
- ・土のう積みや避難訓練
- ・止水板による被害の軽減
- ・水路、ため池の事前排水
- ・道路雨水ますのゴミ等除去

当面の事業計画 は、床上浸水実績箇所の解消を目指します

優先順位	地区	対策優先度判定結果	排水区分名	対策内容	年次別事業内容												
					R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11			
1	倉敷	重点対策地区	合流区域(倉敷)	ポンプ新設 導水きよ新設 放流きよ新設													
2	玉島	整備優先地区	新川-1-2	導水きよ新設 放流管きよの新設 排水機場増強、調圧水槽の改築													
3~7	倉敷	整備優先地区	吉岡川左岸-2~6	ポンプゲート新設													
8	倉敷	整備優先地区	倉敷川北左岸-6-1	水路改修 ポンプゲート新設 調整池新設													
9	児島	整備優先地区	郷内川左岸-3	排水機場増強													
10	倉敷	整備優先地区	(準)汐入川-1	貯留施設新設 中継ポンプ新設													

都市計画決定・事業認可・事業計画手続き

## 平成30年7月豪雨等災害関連経費一覧表

事業名	令和2年度6月追加補正予算までの額	令和2年度9月補正予算額
災害救助関係経費	24億9,005万円	250万円
(内 災害弔慰金等給付事業)	1億9,250万円	250万円
災害復旧費	132億8,097万円	—
その他災害関連経費	335億2,563万円	600万円
(内 避難経路等確保事業)	3億1,549万円	600万円
合計	492億9,665万円	850万円
平成30年7月豪雨以降の災害関連経費(実績+予算)の累計		<b>493億515万円</b>

## 新型コロナウイルス感染症対策経費一覧表

事業名	令和2年度6月追加補正予算までの額	令和2年度9月補正予算額
特別定額給付金給付事業	485億8,480万円	
子育て世帯臨時特別給付金事業	6億8,112万円	
ひとり親世帯臨時特別給付金給付事業	5億9,676万円	
出産育児一時金特別定額給付金給付事業	2億9,399万円	
保育士等特別支援給付金給付事業	1億9,163万円	
事業継続支援金交付事業	16億4,163万円	
ふんばる事業者応援事業	2億円	
倉敷市「お店を応援☆キャッシュレスでお得」事業	5億1,000万円	
ぼっけえお得な「倉敷みらい旅」事業	1億円	
公共施設感染症対策事業	4億3,090万円	6,128万円
新型コロナウイルス感染症対策基金積立金	500万円	1,238万円
児島市民交流センター管理運営事業		1,390万円
玉島市民交流センター管理運営事業		950万円
環境交流スクエア管理運営事業		2,400万円
災害備蓄品整備事業	3,833万円	464万円
救護施設職員慰労金給付事業		90万円
感染症対策事業	5,974万円	852万円
山陽ハイソ運営事業	210万円	1,045万円
安心して過ごせる観光地づくり推進事業		6,000万円
観光施設管理運営事業	620万円	3,567万円
救急高度化推進整備事業	800万円	3,342万円
修学旅行等キャンセル料負担金		3,160万円
小1グッドスタート事業		337万円
医療従事者等慰労金		6,600万円
高齢者インフルエンザ等予防接種事業		3億2,259万円
合計	543億9,352万円	6億9,822万円
新型コロナウイルス感染症対策経費の累計		<b>550億9,174万円</b>

※主たる項目のみ抜粋しております。  
令和2年度6月追加補正予算までの額は  
合計と一致しません。

新型コロナウイルス対策経費は、平成30年7月豪雨災害を上回る災害級の経費となりました。今後も大きな補正予算が続きます。

## 『編集後記』

西日本豪雨の発生から2年が過ぎた。

国は河川の安全対策の柱として、小田川と高梁川の合流点を下流に付け替える工事を始めている。工期を当初予定の半分の5年間に短縮して整備を急ぐ。

大切な体や心のケアも忘れてはならない。

社会福祉協議会やNPOなどの力を集め、見守り活動など続けてほしい。これからはますますその重要性は増すのではないか。

それでも田んぼの稲の青さから、子どもたちの声が響き渡る学校から、色々な所で復興の歩みを感じる事が出来るようになった。

色々な方々が助けてくれた。とくに暑いなか、駆けつけてくれたボランティアの皆さんには感謝の思いで一杯になる。

私たちはこの経験を踏まえて、何をなすべきか。それを後世に伝えていかなければならない。悲しみの上に伝えるべき教訓があるのだ。

それが災害に強く、人が助け合うまちづくりにつながるはずだ。私はそのために力を尽くしたいと考えます。

あらかき竜二

# 竜の子新聞

特別号

市政報告  
発行 **あらしき竜二**  
倉敷市川入 641-5  
TEL & FAX : 086-434-8185  
http://www.ryu2.biz/  
e-mail: info@ryu2.biz

facebook

「平成30年豪雨災害」あれからもう2年が経ちました。倉敷市でもっとも被害が多かった真備町も少しずつではありますが、復興の道を歩んでいます。

この災害は西日本豪雨とも言われ、中国地方を中心に多大な被害が出ました。特に気になっていたのは**鳥根県**の**江の川**流域の被害です。



## 平成30年7月豪雨

### 江の川水系八戸川

写真に残っている被害の様子は真備町に似ているようで心に残っています。広島県と鳥根県を流れる江の川。その本流で行き場を失った水が支流に逆流してバックウオーター現象(逆流現象)を引き起こし氾濫、川沿いの多くの地域が被災したという。昔から大雨の際の避難意識は強く、皆で助け合っ、高台には早めに避難し、人的被害はなかったとの事。ただ、収穫前の名産品のゴボウが全滅。報道されない、たくさんのやりきれなさを感じます。

「令和2年豪雨災害」7/14またしても江の川流域を50年に一度と言われる記録的大雨が襲い、浸水被害が発生。収穫前の名産品のゴボウやエゴマも被害を受けたという。8月、鳥根県の江の川流域へ行つて来ました。

「江の川へ」この日は晴天。氾濫を起こした江の川へ。冠水して通行止めになったという「大貫橋」。江の川は川幅も広く美しい川でした。橋も設置位置が高い。それが当日はこの橋が冠水したという。



▲ 大貫橋

「えっ?ここまで水がきたの?」自然の恐ろしさに震えました。



◀ 電線にかかる流木

「谷住郷」この地区は水害常襲地帯と言われ、全国でも珍しい「放水路トンネル」があります。



小谷川が地区を横切るように流れ、江の川本流に合流。ほぼバックウオーター現象が起こり浸水が地区全体に及んでいたという。堤防を県は下流改修工事を実施。



▲道の駅インフォメーションかわもと

高くして、江の川の水が来ないようにする。  
小谷川は地下下にトンネルを作り、水を流す。なるほど、この方法なら逆流は起こらない。その地区にふさわしいアイディアがあると気付きました。

## 「道の駅 インフォメーションかわもと」

川本町にある道の駅に立ち寄りました。川本町は全国でも有名なゴマの産地です。  
ゴボウもあれば購入したい。やはりゴボウは販売していない残念。ゴマの葉やオイルなどを購入しました。とても美味しい。

## 「桜江支所」

桜江支所へ訪問しました。災害への対策や江の川流域の工事など、行政の立場からの取り組みを聞き取った。江津市桜江市役所係長から話を伺いました。



▲桜江支所(桜江総合センター内)

最初に伺ったのは江の川流域はここ50年で3度の大雨被害にあっている、それでも人的被害がほぼないのは助け合いのシステムが確立しているからという話。強く同意。まず避難することは自分も家族も守ることに繋がると信じています。県はバックウオーター現象が発生したと分析しています。しかし5ヶ所以上で発生し25ヶ所で氾濫した。地区に一気に水があふれ、なすすべがなかったとの話に悔しさがにじみます。

バックウオーター現象が起こったと確認された5ヶ所は2年前にも氾濫した地点という。  
国と県と市は堤防工事に着手しましたが、用地取得が遅れ、また国と県との施行区分が決まっていない箇所があるという。  
それでも防災に取り組み、出来ることに取り組み、人的被害をなくすという言葉に力強さを感じました。

## 「八戸川冠水地域」

ここは桜江町。江の川水系八戸川です。この合流地点でバックウオーター現象を引き起こし、町のほとんどが冠水したという。川沿いでは堤防かさ上げ工事の真っ最中ということでしたが、あまり進んでいない印象を受けました。  
島根県には出雲大社、世界遺産に登録された石見銀山など有数の観光資源があり、豊かな自然もあります。特に今回伺った江の川流域地域帯はとても美しいと感じました。切り札ともいえる堤防ですが、国土交通省の河川整備計画によると、完成した区間は全体の15%ほどにとどまるといいます。2年前から400mしか進んでいない。  
その要因は、用地取得が進んでいないのですが、それにはこの流域

特有の江の川に対する思いがあるようです。



▲八戸川堤防かさ上げ工事

江の川はまるでナイル川のように氾濫するが、そのおかげで土地が肥沃になり、美味しい農作物が出来るとも言われているそうです。  
「川と共に生きる」という思い。  
しかし、江の川上流にある1974年完成の土師ダムが存在があります。今回の豪雨の際にもかなりの水を放流したそうです。  
台風や大雨の激化やダムの放流水などを考えれば、今後ますます水の動きを読むのが難しくなるはずですが、いかに自然との共存を図るのか？色々な事を思いながら帰途につきました。